

【書評】

竹中伸夫著『現代イギリス歴史教育内容編成論研究』

(風間書房, 2012年, 427頁) 8000円+税

水山光春
(京都教育大学)

本書は、竹中伸夫氏が2005年に広島大学に提出された学位論文を補訂公刊されたものである。

竹中氏の研究目的は、これまでの歴史教育内容編成の研究が、理念的もしくは不十分な構造解明にとどまっているとの問題意識のもとに、現代イギリスを手がかりに、体系的な歴史教育内容編成論の研究を行うとともに、その分析を踏まえて、現代イギリス歴史教育改革の原理的・理論的展開と到達点を解明することにある。

本書は以下の章から構成されている。

- 序章 本研究の目的と方法
- 第一章 歴史教育内容編成論の類型化
- 第二章 歴史的歴史認識形成のための歴史教育内容
- 第三章 歴史的社会的歴史認識形成のための歴史教育内容
- 第四章 社会的歴史認識形成のための歴史教育内容編成論の成立
- 第五章 歴史教育内容編成の原理と方法
- 終章 総括と今後の課題

竹中氏は、まず第一章において、現代イギリス歴史教育の展開を、教育目標や内容編成の観点から分析することを通して、歴史教育内容編成論を、歴史的歴史認識形成のための「政治史教授型」と「社会史教授型」、歴史的社会的歴史認識形成のための「社会構造教授型」と「社会機能教授型」と「社会問題教授型」、および社会的歴史認識形成のための「方法的歴史認識形成型」の6つに類型化した。

続く第二章から第四章では、各類型において最も典型的と思われる教科書(シリーズ)やカリキュラムを研究対象に、各類型の教育内容編成の構造と原理を分析・抽出し、比較・考察するとともに、現代イギリス歴史教育改革の原理的・理論的展開と到達点を解明した。そして、これらの分析結果をもとにした第五章での総合的考察を経て、終章

で次のように結論づける。即ち、

「イギリスの歴史教育改革は、それぞれ従前の歴史教育論、歴史教育内容編成論が抱える問題性や限界性を、歴史教育内容編成構造や原理の変革を通して克服しながら、連続的・段階的・漸進的に改革を進めてきたこと、その改革は、教育目標・教育内容・教科の各レベルにおける、一体的な実用主義的改革となっているとまとめられる」。

結論が示すように、本書は、教育内容編成を視点とした、これまでにない体系的かつ具体的なイギリス“歴史教育改革史”研究となっている。このこと以外に、評者がつかむ本書の意義は次の二点である。

第一に、これまでの歴史教育内容論研究が、ともすればカリキュラムとしてのスコープ、シーケンス、編成原理のうちの一つもしくは二つを扱うにとどまっていたのに対して、本研究は三つすべての視点から総合的に論じたものであること。

第二に、本研究は、現代イギリスを超えて一般的な、歴史教育カリキュラム内容編成論の構造的・原理的な研究となっていること。また、そのことが、歴史を教養主義的に教える教育から歴史で教える実用主義的な歴史教育を志向するものへと、改革を行いつつある我が国の歴史教育研究の現状を踏まえた、今後のあるべき方向性に対する内容・方法論的示唆を与えていること。

本研究は、歴史教育改革のあゆみに、歴史的歴史認識、歴史的社会的歴史認識、社会的歴史認識という枠組みと段階性を与えつつ、実証的な論考を加えるものであった。とすると、必然的に残るは「社会的社会的歴史認識」形成としての歴史教育となるが、それは具体的にどのように存在するのか、そのカリキュラムは…、内容編成は…。英国の市民性教育に関心を持つ評者にとって興味は尽きない。今後の研究の発展をぜひとも期待したい。